

冬季の転倒災害を防止しましょう

STOP! 転倒災害プロジェクト

転倒災害は全労働災害の発生件数中最も多い災害です。しかし、その再発防止対策については、発生場所や状況・環境等の多様さなどから、効果的な対策が難しい場合も多く、結果的に何も対策が講じられていないケースも散見されます。

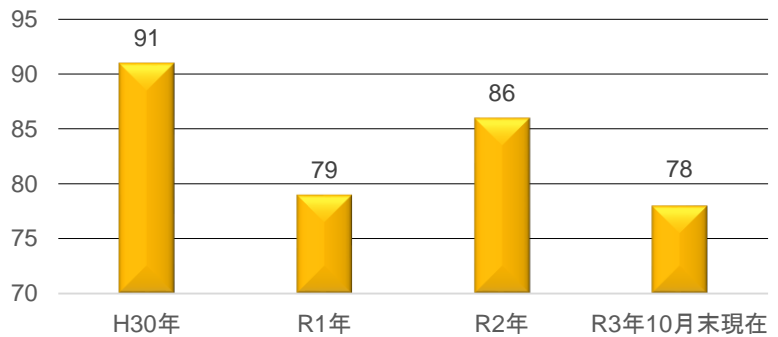
古川労働基準監督署管内では、長期的には災害件数が減少しているものの、**転倒災害は減少傾向が見られず、特に冬季における転倒がその多くを占めています（駐車場での転倒を含む）。**

本リーフレットでは、転倒災害の主な原因である「滑り」・「踏み外し」・「つまづき」の3事項に関する注意点や対策方法、対策ツール等をご紹介します。これから到来する冬季における転倒災害防止対策を検討する際に、是非ともご活用ください。

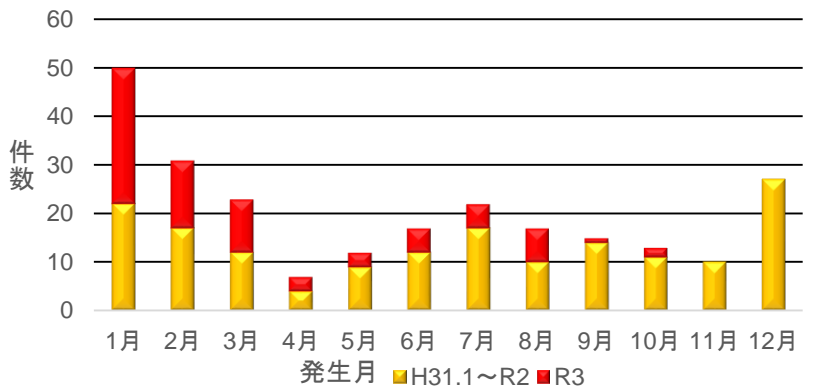
転倒災害発生状況

- 平成31年1月から令和3年10月末現在において古川労働基準監督署管内で仕事中の転倒により**4日以上休業された方は334人に及び、その約6割の方は休業が1月以上の長期にわたっています。**
- 宮城の転倒災害は特に降雪・積雪期に非常に多く発生しており、毎年1～2月には、転倒災害が増加する傾向にあります。

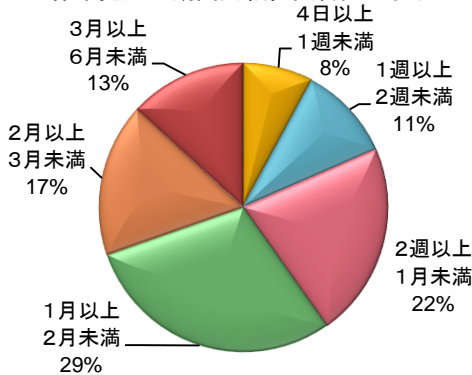
年別転倒災害発生状況



月別転倒災害発生件数状況(平成31年1月～令和3年10月末)



休業見込み期間別転倒災害発生状況



< 転倒災害防止の主な原因 >

▶ 転倒災害は、大きく3種類に分けられます。皆さまの職場にも似たような危険はありませんか？

滑り



<主な原因>

- 路面の凍結、積雪。
- 床に水や油が飛散している。
- ビニールや紙など、滑りやすい異物が床に落ちている。
- 床が滑りやすい素材である。

つまづき



<主な原因>

- 床面の凹凸や段差がある。
- 通路等に荷物や商品などが放置されている。
- 自分で思ったより足が上がらない。

踏み外し



<主な原因>

- 大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態で作業している。
- 階段、通路、作業場が暗い。
- 余裕のない行動（急ぎ足、小走りなど）。

＜ 転倒災害防止対策のポイント ＞

▶ 転倒災害を防止することで、安心して作業が行えるようになり、作業効率も上がります。

check

1 安全な通路等が確保されていますか？

(4S：整理・整頓・清掃・清潔の徹底)

- こまめな除雪の実施、凍結予想箇所への凍結防止剤の散布（屋外）
- 凍結防止機能付きマット等の敷設（屋内）
- 床面の凹凸、段差などの解消、床面の汚れ（水、油、粉など）除去
- 歩行場所への物の放置禁止
- 必要な照度の確保（照明設備等の設置など）

check

2 転倒しにくい作業方法

- 滑りにくい履物の徹底（屋外では脱着式の滑り止め具の使用なども）
- 滑りやすい場所では、「小さな歩幅」、「少し膝を曲げ」、「足裏全体で急がず、ゆっくり」歩く
- 足元が見えにくい状態で作業しない

check

3 その他の対策

- 降雪時等の出勤時は、時間に余裕をもって出発し、遅れても、あせらず、注意深くゆっくり歩く。冬季用の履き物を着用する。
(当署管内では出勤時の駐車場内における転倒災害が多発しています)
- 両手に荷物等を抱えずに歩く
- 解消できない危険箇所への「凍結転倒注意」など、掲示物による「見える化」
- 自らの身体機能の客観的な把握と身体機能の維持向上に取り組み
(特に高年齢労働者。エイジフレンドリーガイドライン参照)

転倒災害の防止対策のためのツール

○厚生労働省「[職場のあんぜんサイト](#)」や、(独)労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所では、転倒災害を防止するための安全活動事例（見える化事例）や映像教材など、転倒災害防止に関する各種ツールを公開しています。これらを参考にしながら、皆さまの事業場に適している転倒災害防止対策を導入してください。



【映像教材】

滑りによる転倒災害防止
(労働安全衛生総合研究所)

【映像教材】

転倒・腰痛予防！「いきいき健康体操」
(職場のあんぜんサイト)

「見える」安全活動コンクール
(職場のあんぜんサイト)

上記ツールは、お手持ちのスマートフォンやタブレット等で自宅等でもご覧いただくことが可能となっています。新型コロナウイルス感染症対策としてのリモート研修や在宅教育として、労働者の転倒防止意識の向上のためにお役立てください！

厚生労働省と労働災害防止団体では、転倒災害を撲滅するため「**STOP！転倒災害プロジェクト**」を推進しています。

STOP！転倒災害プロジェクト
(職場のあんぜんサイト)

